

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・
ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

(推進校報告)

岩手県教育委員会事務局

保健体育課

目次


1	盛岡市立向中野小学校	1
2	矢巾町立不動小学校	3
3	北上市立鬼柳小学校	7
4	北上市立口内小学校	9
5	遠野市立遠野北小学校	11
6	山田町立船越小学校	13
7	二戸市立御返地小学校	15
8	盛岡市立黒石野中学校	18
9	花巻市立湯口中学校	21
10	大船渡市立大船渡中学校	24
11	大船渡市立末崎中学校	28
12	大船渡市立綾里中学校	30
13	宮古市立河南中学校	34
14	山田町立山田中学校	36
15	岩泉町立小川中学校	38
16	岩手県立不来方高等学校	41



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	盛岡市立向中野小学校 第2学年 136名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育、図画工作、道徳) ② 行事名 (運動会、講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツに対する興味・関心を高め、自らスポーツに親しむ心を育てる。 ○共生社会の構築を目指して、他者への理解を深め、互いに支え合おうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>【事前指導】</p> <p>○オリンピック・パラリンピックを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックシンボル、東京2020エンブレム、オリンピックマスコットについて ・オリンピック、パラリンピック種目について ・「WHO I AM」の視聴（国枝選手） <p>○ボッチャに挑戦しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級ごとにボッチャ体験 ・親子でボッチャ体験
	

	<p>○オリンピック・パラリンピック競技に挑戦しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会のチャンスレースで「向中野2020オリンピック」と題して、子どもたちが選手になり、オリパラ競技に挑戦  <p>○芦田創選手による講演会・実技指導</p>  <p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の成長に気付き、他者理解を深める ・楽しかったよ、二年生（国語） ・明日へジャンプ（生活科）
<p>6 主な成果</p>	<p>○オリンピックやパラリンピックがどんな大会かを理解し、オリンピック・パラリンピックへの興味、関心を高めることができた。</p> <p>○ボッチャ体験をしたり、芦田選手と一緒に活動したりすることで、スポーツへの興味・関心を高めることができた。</p> <p>○子どもたちが、芦田選手の生き方や考え方に触れることで、自分にも可能性があることに気付かせることができた。自分のもっている力を伸ばしたいという意欲にもつながった。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○低学年ということもあり、オリンピック、パラリンピックについての学習は、映像資料やパワーポイント等を使い、可視化させながら授業を進めた。</p> <p>○ボッチャ体験やオリパラの競技を運動会種目に取り入れるなど、体験的な活動を行った。パラリンピアン講演会でも、一緒に活動する時間を多く設定していただいた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○今年度の指導計画の中に、オリンピック・パラリンピック教育をどのように取り入れていくか、計画を立てることが難しい。</p> <p>○今年度になってから事業に取り組むことになり、単発的な取り組みとなってしまった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>検討中</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	矢巾町立不動小学校 4年生児童 35人（特別支援学級児童2人含む）
3 展開の形式	学校における活動 教科名 総合的な学習の時間
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの意義や歴史を学んだり、実際にパラリンピック種目を体験したりすることを通して、パラリンピックに対する興味・関心を高めるとともに、夢や希望を持ってこれからの人生をよりよいものにしていこうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について調べる。</p> <p>① オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史を調べる。 ・オリンピック・パラリンピックの意義を知る。 <p>② パラリンピックに関するクイズを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにクイズを作成する。 ・作成したパラリンピックに関するクイズを出し合う。 <p>(児童が作成したクイズの例) →実際は3択か4択</p> <p>☆柔道では、勝敗が決まるのは早くて何秒でしょうか。 (答え 2秒)</p> <p>☆ゴールボールのボールの重さは何kgでしょうか。 (答え 1.25kg)</p> <p>☆車いすバスケットでトラベリングになるのはどういうときでしょうか。 (答え タイヤを3回回したとき)</p> <p>☆車いすバスケットの日本の香西選手が、特にきたえている体の部分はどこでしょうか。 (答え お尻)</p>

(2) パラリンピックにある種目(ボッチャ)を実際に体験し、感想を話し合う。

① ボッチャのルールを知り、実際に体験する。

- ・ボッチャのルールを知る。
- ・実際にボッチャを体験する。

② ボッチャを体験した感想を発表する。

(ボッチャを体験している様子)



《児童の感想》

☆最初はどのようなルール化分からなくてむずかしかったけれど、ボッチャをやっていたら少しずつ分かってきて、おもしろいなあと思いました。また、ボッチャをやりたいです。

☆今日初めてボッチャをやってみて、とても楽しかったです。〇〇さんがすごくうまくできて、すごいと思いました。楽しかったからまたやりたいです。次は、ゴールボールもやりたいです。

☆何回も負けただけれど、みんなと楽しくできたのでよかったです。ボッチャのルールも知ることができたのでよかったです。

(3) パラリンピアン(柔道)による講演会を行う。

① 初瀬勇輔さん(パラ柔道)の講演を聞く。

演題「行動することで自分を変え、世界を変える」

- ・事前に初瀬勇輔さんの生い立ちについて知り、質問したいことをまとめておく。
- ・初瀬さんの講演を聞く。
- ・質問をし、考えを深めたり、感想を発表したりする。



② アイマスク体験を行い、視覚障がい者や誘導者の思いを知る。

- ・アイマスクをしている友達に、前に立つ人と同じ動きをするように口頭で伝える。
- ・アイマスクをしながら、拍手が聞こえる方へ歩く。
- ・アイマスクをしている友達を、声や体に触れさせることでエスコートする。
- ・感想を発表する。



《児童の感想》

☆タオルで目かくしをして歩いてみて、思ったよりまっすぐに進まずに曲がってしまったので、目が見えないのはたいへんだと思いました。障がい者が約937万人もいると聞いて、とてもびっくりしました。また、初瀬さんが自分で会社をつくったのがすごいと思いました。また、初瀬さんに会いたいです。

☆パラリンピックを見に行くことは無理かもしれないけれど、テレビで見たいです。タオルで目かくしをして歩いたときは曲がってしまいました。目が見えないのはこんなに不自由だと分かりました。

☆目が見えないことはとても不自由だということを知りました。でも、他の障がい者のために会社を自分でつくってすごいと思いました。一番すごいと思ったのは、視力を失ったのにあきらめずに柔道を続けていたことです。授業はとても楽しかったです。

☆実際に目かくしをしてみたら、真っ暗でした。視力を失ったら、すごく大変だと分かりました。音だけをたよりに歩くのはむずかしいし、字も書けません。だから、初瀬さんはすごい人だと思いました。目が不自由なのに、人と話したり歩いたりしているからです。自分だったらとても苦労すると思います。もし、近くにそういう人がいたら、やさしくしたいと思います。



(4) 体験したことや学んだことを振り返り、個人新聞にまとめる。

- ・体験したことや学んだことを振り返る。
- ・新聞の記事の下書きをする。
- ・個人新聞を作成し、互いに見合う。



<p>6 主な成果</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心が高まったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートでは、「オリンピック・パラリンピック」に興味のある児童は少なかった。（「オリンピックに興味があるか」という設問で「とてもそう思う」「そう思う」の割合が38%、「パラリンピックでは同様に30%） ・事後のアンケートでは、オリンピックは38%が74%に、パラリンピックは30%が同じく74%に増えた。約2倍になった。 ・ボッチャの体験や講演会の前に、パラリンピックに関するクイズをグループごとに作成し、互いにクイズを出し合うことを通して、パラリンピックに関する興味・関心が高まり、以後の学習活動を主体的なものとする事ができたと考えられる。 <p>○パラリンピックが身近なものとして感じられるようになったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの競技種目がないボッチャを体験することで、パラリンピックに関する関心が高まった。 ・ボッチャという競技を経験したことがなくても、友達と楽しくゲームをすることで、ボッチャをまたしてみたいという思いをもたせることができた。また、ボッチャだけでなく、他のパラリンピックの種目にも関心を持たせることができた。 <p>○パラリンピアン(初瀬勇輔さん)の講演やアイマスク体験を通して、視力に障がいを持つ方の苦勞を知るだけでなく、困難があっても、前向きに生きていくことの大事さを知ることができたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク体験を通して、視覚障がい者の困難さを理解させるとともに、同伴者が近くにいることが視覚障がい者が安心できることを体験を通じて学ばせることができた。 ・身体にハンディを背負っても、今、自分ができていることに前向きに取り組むことの大切さを講演を通して学ばせることができた。また、パラリンピックに対する興味・関心をさらに高めることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○パラリンピアンの講演を聞く前に、パラリンピックに関するクイズを考えさせたり、パラリンピックの種目にあるボッチャを体験させたりすることで、パラリンピックに対する興味・関心を高めた。</p> <p>○講演会を中心に、一連の学習を通して学んだことや考えたことを振り返らせ個人新聞にまとめることで、学びを深めさせた。また、互いの学びや思いを共有させることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○「共生社会」の意義を理解させ、実践に目を向けさせるには、今後も範囲を広げて、さらに深い学びにつなげていくように教科等で実践していきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○障がいを持つ方々との交流の機会の設定。</p>



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	北上市立鬼柳小学校 第5学年 38名 第6学年 51名 計89名
3 展開の形式	学校における活動 総合的な学習の時間、道徳
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックについての学習を通して、夢や憧れの思いをふくらませるとともに、目標や手立てを明確にして努力し、自己を高めていくことの素晴らしさを学ぶ機会とする。
5 取組内容	<p>【総合的な学習の時間】</p> <p>「オリンピック・パラリンピックについて知ろう」</p> <p>○オリンピックの歴史、参加国数や競技数の変化、日本選手の活躍などの資料から、オリンピックの意義について考える。</p> <p>○パラリンピック競技の内容やルールの工夫、日本選手の活躍などの資料から、「障がい」について考える。</p> <p>○来校してくださるオリンピック市橋有里さんの活躍について紹介する。</p> <p>「オリンピック市橋有里さんの特別授業」</p> <p>○「チャンスをつかむ3つの方法」について、市橋さんの歩みや競技歴に関する講話から学ぶ。</p> <p>○ランニングの実技を通して、姿勢や地面をとらえるポイントなどを意識して練習することで、自分の力を大きく伸ばすきっかけにつなげられることを学ぶ。</p> <p>○オリンピックはみんなが憧れるすごい人だが、決して別世界の遠い存在ではなく、目標をもって達成に向けた手立ての継続が大切であることを学ぶ。</p>
	 





	 <p>【道徳】 5年「世界に羽ばたく「航平ノート」 6年「こだわりのイナバウアー」</p>  <p>○スポーツを通して生き方を学ぶ資料と市橋さんの講話から学んだこととを関連させながら、目標に向けて努力することの素晴らしさについて考える。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○2021年に開催予定である東京オリンピック・パラリンピックに対する関心を大きく高めることができた。</p> <p>○11月の事業実施に向けて、事前研修や打ち合わせの機会をゆとりをもって進められたので、学年でねらいや見通しを明確にして臨むことができた。</p> <p>○一連の学習活動に、子どもたちは目的意識をもって意欲的に励んでおり、オリンピックの特別授業の後には、多くの子が自ら市橋さんのところに歩み寄り、自分が取り組んでいるスポーツについて具体的に質問していた。</p> <p>○道徳の「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く」価値を、本事業と関連させながら高めることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>オリンピック市橋有里さんに来校していただけることが決まり、特別授業実施に向けてお互いの要望事項等について、メールにて打ち合わせを進めることができた。</p> <p>市橋さんの競技歴等について、事前の学習で紹介しておいたことで心構えや予備知識を持った状態で特別授業に臨み、理解を深めることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○オリンピックの歴史や日本選手の活躍に関する事前学習では、数字データの変化を調べることに終始して、オリンピックの意義に関する学びを深められなかった子もおり、学んだ内容を交流することでフォローしていきたい。</p> <p>○ランニングの実技では、ランニングのスペシャリストと集団を指導する専門家としての役割分担を明確にすることで、限られた時間内でもっと質を高められたと思われる。</p> <p>○パラリンピックに関する学習は不十分な状況なので、今後体験を通して理解を深められる機会を設定していきたい。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>パラリンピックについて重点的に扱い、できればパラリンピックスポーツの体験活動を設定して、そのルール等の工夫について学ぶとともに、「キャップハンディ」の理解を深められるようにしたい。</p>



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	北上市立口内小学校 全校児童 40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間、体育)
4 目標 (ねらい)	○オリンピック、パラリンピックの意義や歴史について学ぶことで、 スポーツに対する興味関心を高める。 ○根木慎志氏の講演、ボッチャ体験を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めるとともに、意欲の向上を図る。
5 取組内容	<p>【車椅子バスケット 根木 慎志氏 講演・ボッチャ体験】 日時：11月5日(木) 5～6校時 内容：1. 元車椅子バスケット日本代表の根木慎志氏の体験談やオリンピック・パラリンピックについての講演を全校で聞いた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パラリンピックに参加した様子 ② 選手時代 ③ 障害者とスポーツ ④ オリンピック・パラリンピックの意義や簡単な歴史 ⑤ シュート実技(児童と一緒に) ⑥ 小学生時代について ⑦ 夢や目標 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2. 全校で「ボッチャ」体験 ・4チームに分かれ根木氏の指導の下、ボッチャを行った。 対戦形式で行い、根木氏の話術に低学年も楽しく活動することができ、パラスポーツに親しむことができた。</p>



	<p>【第6学年 総合的な学習の時間 オリパラ学習】 テーマ：オリンピック・パラリンピックについて調べよう ①課題設定 ②グループ課題設定 ③調べ学習 ④まとめ ④発表会 ⑤振り返り</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○講師の講演をきっかけとして6学年が「総合的な学習の時間」において、課題に沿って調べ学習を行ったことで、国際スポーツ大会開催の意義や役割、日本人アスリートへの関心、支える人々等について初めて知ることが多く、東京大会やスポーツへの興味関心や意欲が高まり、身近に感じることができた。</p> <p>○パラリンピアンのお話を聞くことにより、障害者に対する気持ちの変化や夢をもつこと、努力することの大切さやグローバルな視野、平和について考えることができた。</p> <p>○事前アンケートでは、「将来、オリンピックにボランティアとして参加・応援」「イベントに参加や応援したいか」という2項目が消極的な意見が多かったが、事後アンケートにおいては、プラスの意見に変わり、積極的に参加・応援したいという考えが増えた。</p> 
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○全校児童40名という小規模校であるため、1学年から講演会に参加させ、オリンピック・パラリンピックについて興味関心がもてるようにした。</p> <p>○元車椅子バスケット日本代表の根木慎志氏の講演を全校で聞き、オリンピック・パラリンピックについて知るとともに、講師の体験談や実技を実際に見たことで、東京大会がより身近に感じられるようにした。</p> <p>○全校で「ボッチャ」を体験したことで、スポーツへの興味関心を高め、生涯を通してスポーツに親しむ心を育むことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施したい内容ができないことがあり、来年度以降の外部講師の依頼のあり方。</p> <p>○第6学年児童の学習だけでなく、全校での学習に広げていくための教育課程の編成等。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○第6学年の社会科を中心にオリ・パラ学習を行っていく。</p> <p>○体育等で、パラスポーツ実技体験を行う。</p> <p>○「I'm POSSIBLE」の活用。</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	遠野市立遠野北小学校 4学年 47名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合 体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピック種目のパラテコンドー選手の話を知ったり、体験をしたりすることを通して、障がい乗り越えて活躍する人々の思いや労苦に触れる。 他者への理解を深め、お互いに支え合おうとする態度を育てる。
5 取組内容	1 当日の学習 11月10日(火) 5校時～6校時 (1) 講演「挑戦って、楽しい」 講師 太田渉子 氏 (パラリンピック パラテコンドー選手) 自己紹介、オリンピック、パラリンピックのクイズ、獲得したメダルの数(100以上)、オリンピック銀メダルの披露、スキーに取り組んだこと、自分の腕のこと、小学生の頃の自分をふりかえって、中学生で外国の大会に行ったこと、高校生でパラリンピックに出場したこと、スキー競技について、テコンドー競技について、等のお話を聞いた。   (2) テコンドー体験 太田さんの種目は、けりが中心のため、練習用ミットにけりをする体験を行った。①準備体操、②前にける、③まわしげり、④後ろまわしげり、⑤かかと落とし、の順で体験した。初めに太田さんが見本を見せ、

児童が実際に行ってみるといふ順で進め、太田さんは子ども達の間をまわりながら、「上手だね。」「うまい。」などと声をかけてくれた。



体験終了後は、児童の感想発表を行った。「ハンディを気にせずここまでスポーツでがんばるのはすごい。」「体験が楽しかった。」などの感想が出された。

2事後学習

講演や体験について、作文を書いた。

6 主な成果

貴重な体験をすることができ、児童にもプラス面の変容が多く見られた。

- ・事前事後のアンケートから、パラリンピックに興味を持つ児童が増えた。
- ・翌日太田さんに手紙を書いた児童がいた。講演や体験が楽しかったため。
- ・太田さんを特別の目で見るとはならず、すごいスポーツ選手ととらえる児童が多く見られた。
- ・太田さんについて一人勉強で調べ学習を行い、バイアスロン、クロスカントリー、テコンドーの成績について調べてくる児童も見られた。

7実践において工夫した点(事業の特色)

講師について、特別な予備知識を入れずに活動に取り組みさせたこと。

8主な課題等

今回の事業に当初は、ボッチャの体験も計画していたが、今回のような講演、実技で十分だった。

9来年度以降の実施予定





機会があれば実施したい。
遠野市は、ブラインドサッカーの交流を行っているので、そちらの活動を行っていききたい。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	山田町立船越小学校 第5学年 24名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無にかかわらず、スポーツを通して互いに人格と個性を尊重し支え合う態度を育てる。 ・ボッチャを体験し、スポーツを楽しもうとする心を育てる。
5 取組内容	<p>1, オリエンテーション (1 時間)</p> <p>「ボッチャ」がパラリンピック種目で誰にでも楽しめるスポーツであることを知り、ルールを確認して試しのゲームを行った。</p> <p>2, ボッチャの実技学習 (3 時間)</p> <p>ドリルゲームでねらったところにボールをたくさん投げる機会を設定し、短期間でメインゲームが楽しめるように工夫した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3, 講演と実技 (2 時間)</p> <p>車いすバスケットボール日本代表元主将根木慎志さんによる講演と実技交流を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4, ボッチャ大会 (1 時間)</p>

<p>6 主な成果</p>	<p>1, 肢体不自由の特別支援学級児童は、今まで体育の授業を他児童と同じ条件で受けたことがなかったが、「ボッチャ」を行うことにより、ハンディキャップなしでゲームに参加することができた。本人・他児童とも「共生」について実感できた体験となった。</p> <p>2, 根木さんの講演及び実技交流において、「出会った人と友達になる」という根木さんの姿勢にふれ、障がいの有無にかかわらず「一人の人間」として関わることにより、人格と個性を尊重することの大切さを学ぶことができた。また、あきらめないで挑戦し続ける姿勢に、自分たちの挑戦意欲を高めてもらうことができた。</p> <p>3, 児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックに参加している根木さんは、体が一部動かせなかったりするけど、前向きにいろいろなことをしていてすごいなと思いました。 ・根木先生が来てボッチャがもっと楽しくなったので、最後の日（ボッチャ大会）も楽しくやりたいです。 <p>4, 次年度開催予定のパラリンピックについて興味を持つことができたこと。（根木さんは選手村の副村長を務めるそうなので、出場選手にも交流を広げることも検討。）</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>1, 講演と実技交流の単発事業ではなく、単元を組んで「ボッチャ」について深く学ぶようにしたこと。</p> <p>2, 重度の肢体不自由者が使用する「ランプ」という道具を全員が使用したこと。</p> <p>障がいがあってもできるだけ同じ条件で競うことができる「ボッチャ」というパラリンピック種目が持つ「共生」の可能性を実感できるようにした。</p> <div data-bbox="459 1205 1369 1541" data-label="Image"> </div> <p>3, 形成的授業評価法を用い、児童の授業評価を次時の授業改善に生かしたこと。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>1, 感染症拡大に関わり、首都圏から講師が来校することについて非常に気を使わなければならない時期であったこと。</p> <p>2, 本事業の推進にあたって、一部の学年中心の取組となり、全校へ広げることができなかったこと。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度はオリンピック・パラリンピック開催予定の年であるため、児童をはじめ家庭や地域と一体となって本事業に関わる取組を検討したい。</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	二戸市立御返地小学校 3年生～6年生児童 17名
3 展開の形式	学校における活動 ① 教科名（主に総合的な学習の時間） ② 行事名（ボッチャ大会、パラリンピアンによる講演会等 パラリンピックについての講義、ボールゲーム体験） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・パラリンピック教育を実施することで、児童のパラリンピックへの理解・関心を育てる ・障がい者のスポーツにかける思いにふれることで、夢や希望を持ち続けることの大切を理解させるとともに、スポーツを楽しむ心を育てる
5 取組内容	① オリンピック・パラリンピックの理解 ・「I'm POSSIBLE」を活用し学習を行う。 ・パラリンピック競技を知る。 ② パラリンピック競技に挑戦 ・「ボッチャ」競技を知り、みんなで楽しもう。 ・「ゴールボール」競技を知り、みんなで楽しもう。 ③ パラリンピアンとの交流体験（リモート） ・パラリンピアン・芦田創選手の講演 ・実技指導 ④ パラリンピック新聞の作成と交流（3学期実施） ～記事内容～ ・パラリンピックの見どころ紹介 ・芦田創さんを応援しよう。 ・自分の夢を考えてみよう。
6 主な成果	○パラリンピック種目を実際に体験し楽しむことを通して、パラスポーツの理解が促進された。 ○パラリンピアン講演会を通して、人生において夢を追い続けることの意義や価値を深く学ぶことができ、キャリア教育としても大変有効であった。



【ボッチャ大会・ボールゲームの感想】



- 協力することを目標に、チームで力を合わせて頑張りました。ボッチャは、簡単そうに見えたけど、思ったよりボールコントロールが難しかったです。
- ボッチャは、誰でもが楽しめる競技だと思いました。また、みんなでやりたいです。
- 目隠しして、ボールの中の鈴の音に集中しました。うまく止められた時もありましたが、思ったより難しかったです。パラリンピックの人たちの能力の高さにびっくりしました。
- 今までパラリンピックに興味がありませんでしたが、実際に体験してみたら、競技を見てみたいと思いました。

【講演会の感想】

- 走り方の指導では、姿勢を正しくすると、今より速く走れることが分かったので、普段から姿勢よく生活していきたいです。
- 学んだことは、やってみたいと思ったらチャレンジしてみることで。芦田さんのチャレンジする力を見習って、私も、勉強でも運動でもチャレンジ精神で頑張りたいです。
- 病気によって、右腕が左腕より2kg少なくバランスがとれないのに、7mを跳ぶってすごいと思いました。パラリンピックで活躍する芦田さんをみんなで応援したいです。
- 自分の夢を持つことの大切さがよく分かりました。芦田さんは、夢を書いてと言われたら100個でも200個でも書けると話していたので、すごいです。
- 体のバランスが悪くても、7m15cmも跳べるからすごく努力したのだなあと思いました。ぼくも前向きに物事を考え行動します。
- 夢が叶えられなくても、叶えるために努力したことが自分に財産になると話されていたことに感激しました。これから僕も、今できることに集中して頑張りたいと思います。
- 夢の持ち方について共感しました。来年は中学校で野球部に入ります。前向きに生きることを忘れず、今から野球部で通用するよう体を鍛えていきたいと思います。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

○2学期からの取組であったが、教科におけるオリンピック教材・題材を洗い出し、リンクさせながら活動を進めることができた。
○講演会で学んだことを、その時だけのものにさせず、「自分の行動とふりかえり、次の行動に生かすこと」「夢を叶えるために努力し続けること」の2点を重点としたキャリア指導を日常的に繰り返すこと。(3学期実施)



<p>8 主な課題等</p>	<p>○パラリンピックで使われる用具が、一般に普及されていないため、用具を揃えるために手間や時間がかかった。</p> <p>○ボッチャ大会やパラリンピアンへの講演会等、地域や近隣の特別支援学級児童を巻き込んだ活動にしたかったが、コロナ禍ゆえ、断念せざるを得なかった。</p> <p>○年度途中から、活動を組んでいったため、講演会が12月中旬になってしまった。学習進度とのかかわりで、まとめも大きくずれ込んでしまった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度のみの取組とせず、「ボッチャ大会」については、来年度も開催したいと考えている。 • キャリア教育やボランティア教育ともリンクさせながら、「多様性」や「インクルーシブ」について考え、語り合える機会を設定していきたい。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	盛岡市立黒石野中学校 第2学年 153名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○スポーツの盛んな本校において、障がいを乗り越えてスポーツに取り組むパラリンピアンを間近にすることで、インクルーシブについて考えるとともに、スポーツに対する価値観を広げる。
5 取組内容	<p>○本校では、総合的な学習の時間を「街道(みち)の時間」として、生き方教育を中心に学習を進めている。その中の一つとして、今回のオリ・パラムーブメントの取り組みを行った。</p> <p>【講師についての事前学習】 学年全体で講師の経歴について学んだ。また、視覚障がい者柔道について、柔道の指導者でもある職員が解説を行った。 各学級においては、講師に関する読み物資料によって、講師の思いや生き方について学んだ。</p> <p>【講師：初瀬勇輔氏による講演】 初瀬氏の取り組みに加え、障がいについての考え方や障がい者スポーツに関する内容、様々なパラリンピック競技などが紹介された。</p>
	 



後半の実技では、ブラインド体験として、アイマスクをしての歩行や、ペアでの介護体験を行った。



【講演・実技の振り返り】

各学級において、振り返りシートに記入し、今回の体験を各自でまとめた。また、学級で話し合い意見交流を行って、自分たちの考えをさらに深めた。

※今回の体験で障がいに対する理解を広げ、数日後に予定していた「交流籍を活用した交流学习」において、肢体不自由特別支援学校に在籍している同学年の生徒との交流を行う予定だった。しかし、コロナウィルスの影響が心配される状況だったため中止となった。

6 主な成果

共生社会について考え、理解するというテーマ・目標（ねらい）に迫ることのできる事業だった。スポーツが身近にある生徒たちにとって、世界で活躍する方から実際に話を聞くことが、憧れとともに視野を広げる機会となった。講演後には内容をさらに深めようとする質問が多く出された。生徒たちの興味・関心を十分に引き出す内容だった。振り返りとして書いた感想や実施後のアンケートにも充実した様子が見える。

【アンケートに記載された生徒の感想から】

・障がいのある人でも前を向いてスポーツを頑張っているのが、とてもすごいと思った。障がいにも種類があることが分かった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック自体は知っていたけど、どんな種目があるかなどは知らなかったの、いろいろ知ることができて、もっと興味深くなりました。 ・多様な人々を理解して行動することは大切だと思いました。仲間と助け合うことで共生社会が成り立つということも分かりました。 ・オリンピックにはオリンピックの楽しさ、パラリンピックにはパラリンピックの楽しさがあり、937万人いる障害の方々を考えたものができることにとても感動した。 ・これまでは、オリンピックを家で見て応援することが多く、パラリンピックはあまり見てこなかったけど、障害があってもスポーツの楽しみを忘れない、新たな友達をつくれることなどを知り、これからはボランティアや応援などで参加していきたいです。 ・目の不自由な方のつらさ、不便さを痛感し、応援したいと思うし、パラリンピックもがんばってほしいと思う。興味をもった。 ・自分がよく知らなかったパラリンピックについて聞いて、障害の有無、国籍、性別などにとらわれず、共生できる社会を目指したいと思った。 ・今まで知ることも見ることなかったパラリンピックですが、他にも、運動に限らず障がいをもった方がどんな風に生活しているのかまで、もっとくわしく知りたいと思いました。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習をしていたことが、事業に臨む姿勢、意欲につながった。 ・講演後に質問の時間を設けた。多くの質問が出ることによって、事業のねらいに迫ることにつながり、学びが深まった。 ・事業後、「共生社会」に関する新聞の記事を題材にして道徳を行った。また、関連する記事を集め掲示するコーナーをつくった。
8主な課題等	<p>本事業を実施したことによって、オリンピック・パラリンピックが身近なものとなった。また、共生社会についての理解、多様性を尊重する態度を育てる機会ともなった。この機会を次につなげていくことが今後の課題である。スポーツ事業、オリンピック・パラリンピックへの参画、障がい者の理解と支援など、具体的な行動を生徒自らが興せるような、しっかりとした土台を中学校段階で身につけられるよう取り組んでいきたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>機会があれば、2学年に限定せず、1学年にも経験させたいと思う。オリンピック・パラリンピック終了後も、4年後を見据えた「生き方教育」として取り組みたいと思う。</p>

⑥オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の実施

11月18日(水)～19日(木)に行った2学年行事「宿泊体験学習」における、研修の柱として実施した。

・1日目「キャップハンディ体験」

共生社会を生きる一人として、相手意識をもって生活することの大切さを、施設職員の指導による体験を通して学んだ。



【車イス体験の様子】



【白杖体験の様子】

〈生徒の感想から〉

○(車イス体験で)乗っている人に安心感を与えるためには、声かけや道に合わせて歩くスピードを変えるなど、小さな気遣いが大切だと思った。相手が安心感をもてるようにしたいと思った。

○障がいがない人が当たり前ではなく、障がいがある人もない人もどちらも安心して安全に暮らせる世界にするために、これから生きる私たちが動かなければならないと感じた。

・2日目「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」リオデジャネイロパラリンピック陸上銅メダリストの芦田創氏を講師に迎え、「より遠くへ」と題した講演会と、実技指導を行った。



【講演「より遠くへ」】



【←実技指導の様子】



【芦田選手と一緒に→】

⑦オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の事後学習事業を通して学んだことや感じたことをレポートにまとめた。また、学級全体でその内容を交流した。

6 主な成果

生徒の感想から、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まり、また、自分自身のこれからの生き方について、ポジティブに捉えていこうとする意識が高まったことがうかがえる。パラリンピアン芦田創氏の講演を通し、多様な生き方に触れ、生徒が自らの生き方を考えることができたことが、大きな成果といえる。以下に生徒の感想からいくつかを紹介する。

〈生徒の感想 ～オリンピック・パラリンピックに関連して～〉

○世界で戦う人達は、とても大きなものを背負って戦っているんだなと思った。自分もそんな風になりたいけれど、自分のできるところからやっていきたい。

○オリンピック、パラリンピアンの方々には常に今の現状に満足せず、上を目指すという計り知れない向上心があり、その姿を見て、自分も職業は違ってもこういう人になりたいと思った。

	<p>○スポーツにはたくさんの人を救ったり、つないだりする力があると改めて感じた。メダルはとても重かった。今回講演をいただいた芦田選手との交流で、よりパラリンピックに興味をもった。</p> <p>○パラリンピアンの方に直接お会いできてとても貴重な経験になった。これから生きていく上で大切にしなければいけない事を多く学ぶことができた。これから東京オリンピック・パラリンピックがあるので、オリパラについて学ぶことで、前より興味、関心をもってオリパラを見ることが出来る。オリパラは世界共通の行事なので視野が広がると思った。</p> <p>〈生徒の感想 ～講演を聴いて印象に残った言葉から～〉</p> <p>○「好きなことにチャレンジして、悪い方向に行くことはほぼ無い」という言葉が印象に残った。世界には、学校に行きたくても行けない子どもたちもいると思うので、今だからこそできる勉強を精一杯やりたいと思った。</p> <p>○人生の中で100%無理なことをやろうと考えてもただの時間の無駄だから、そんなことよりも可能性のあることを考えて生きていけば良いということが分かり、それを今後の人生に生かしていこうと思いました。</p> <p>○「他人と比べるのではなく、昨日の自分や前の自分と比べる」という言葉が印象に残った。自分と他人は全く違うから、他人と比べるよりも、前の自分からどれだけ成長したかを考えたり、前の自分をこえようとするなどとても大切だと分かった。</p> <p>○コントロールできないことに文句を言っても始まらない。それよりも自分で変えていける「自分を昨日よりも今日、今日よりも明日の自分が成長しているようにする」ということがとても大事だと思った。そして、生きていく中で、自分だからできる、自分にしかできないこと好きなことをやって生きていきたいと思った。そして、こんな自分が好きだと思えるように理想に向かって頑張っていきたい。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>2学年行事の「宿泊体験学習」の研修の柱と位置づけ、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」と前日の「キャップハンディ体験」を一連の流れの中で実施することで、「他者への理解を深め、共生社会を目指して互いに支え合おうとする豊かな人間性の育成を目指す。」という本事業のねらいに迫ろうとした点。学校を離れた場所で行ったことで、生徒にとって、より印象に残る学びとすることができた。</p>
8主な課題等	<p>予期しなかった新型コロナウイルス感染症の拡大。</p> <p>3年次(来年度)にオリンピック・パラリンピックを学習テーマとした東京方面の修学旅行を計画し、オリンピック・パラリンピック関連施設等の見学や学習を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、東京方面への修学旅行を断念し、それにより、修学旅行のテーマを見直さざるを得ない状況になっている。当初、3年間をかけて本事業による学びを深めていくことを考えていたため、来年度の学びへどうつなげていけるかが課題である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>3年間のオリパラ学習のまとめ</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	大船渡市立大船渡中学校 3学年生徒 51名（男子16名、女子35名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ 講演会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	本校は東日本大震災時に避難所となった学校である。当時から9年が経過しているが、現在の生徒の中には震災時のことを思い出し、PTSDのような状態になる生徒もいる。また、保護者の中にも被災した方がおり、子育てに真剣であるが子どもにつらい思いをさせてしまうこともある。 このような実態の中、東京オリンピック・パラリンピックを機にオリンピックとの交流を通して、共生社会の在り方や苦難を乗り越え仲間を支える力を学び、将来、社会人として自立するために必要な能力を育みたい。そして、3年生の進路実現に向けての一助としたい。
5 取組内容	(1) 事前学習 オリンピアン の 経 歴 や 種 目 に つ い て の 調 査 学 習。 (2) 講演会 ① 講演 シドニー五輪の競泳メダリスト、中村真衣さんの講演では厳しさや悔しさを乗り越えてメダルを獲得するまでのエピソードを聞き、失敗を恐れずに夢や目標にチャレンジする諦めない心を学んだ。



② 質疑応答

生徒の「泳ぐときにプルが弱くて、ばててしまうのですがどうすればよいですか。」という質問に対して、



「泳ぐときにプルが弱くてキック



が強いのであれば、自分の得意なところをさらに磨いて、伸ばしていくのが良い。実は、腹筋・背筋の体幹が一番大切。今より少し回数を多くして鍛えれば、最後まで泳げるようになる。もっと自分に自信をもって頑張ってください。」とアドバイスをいただいた。また、生徒の「失敗を恐れるなというお話で弱い自分を受け入れようとおっしゃっていましたが、弱い自分を受け入れるにはどうすればいいですか。」という質問に対しては、「失敗したときに自分のせいにしたくなる。そして失敗したことを見て見ぬふりをしたくなる。けれど、失敗してもいい。次に繋げることができる。次に生かすことができる。弱い自分を受け入れるには、失敗を恐れないという気持ちを持つことが大切です。」と教えてくれた。



③ メダル披露

平成12年のシドニーオリンピック競泳・女子400m背泳ぎで獲得した銀メダルと、400mメドレーリレーで獲得した銅メダルを見せていただいた。生徒たちは食い入るようにメダルを見つめ、当時の様子を説明してくださる中村さんのお話に目を輝かせながら聞いていた。



④ クイズタイム

オリンピックにまつわる様々なクイズが出題され楽しみながらオリンピック・パラリンピックについて学ぶことができた。



⑤ 全体記念写真撮影



6 主な成果

(1) 失敗を恐れず夢や目標に挑戦し続ける心

・「夢や目標に挑むのは勇気がいるが、失敗を恐れずにチャレンジしてください。」そして、「失敗を恐れるよりも、成長しない自分を恐れなさい。成功とはどういうことか。それは、一度も失敗しないことではない。失敗しても勇気を出してそこから立ち上がることを、本当の成功というのです。」(中村さん)

・世界と戦い数々の栄光をつかんだ中村さんの生き方に触れ、失敗を恐れずに挑戦する姿に感銘を受けるとともに、夢の実現に向けて自分を信じて努力し続けることの大切さを学んだ。



(2) 支えてくれるすべての人々に感謝する心

・失敗して目標を達成できずに、苦労や挫折を味わったが、悔しさを乗り越えてメダルを獲得した。その裏には多くの人たちの協力があった。生徒たちは自分自身に置き換え、今の自分が存在するのは、多くの人たちの支えがあることに改めて気づかされ、感謝する心の大切さを学んだ。



(3) チャレンジする仲間や悩み苦しんでいる仲間を支える心

・「チャレンジしている仲間や悩み苦しんでいる仲間がいたら、心から応援し支えられる人になってほしい。」(中村さん)



・中村さんの競技人生にはいくつもの挫折があり、悩み苦しみながらも乗り越えて栄光をつかんだ。多くの人々の理解と支えのおかげでメダルを獲得したことを知り、仲間の支えや応援が大きな力となる事を学んだ。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演以外に、オリンピックに関するクイズタイムや、オリンピックのメダルを間近で見ながらオリンピックと対話する時間を設けることにより生徒との距離が縮まり、より身近な存在として接しながらオリンピックの人間性に触れることができた。   
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックに実技指導をして頂く場面を計画していたが、コロナ禍による感染症対策を考慮しながらの活動ということもあり、実施できなかった。体験的な活動の難しさを感じた。 ・興味・関心を持続できるように、各教科に於いてオリンピック・パラリンピックに関する学習を継続的に実施していくことが必要である。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育とキャリア教育の視点から、共生社会の在り方や、社会人として必要な能力について学び、進路実現に向けての一助とする。 ・各教科に於いて継続的に学習するとともに、生徒会や委員会につなげて、オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進を図る。


令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	大船渡市立末崎中学校 全校生徒68名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を学びスポーツに親しませ、競技力・学習意欲の向上や責任感の涵養、互いに協力しあって好ましい人間関係の育成を図り、スポーツに対する興味・関心を高め自らの適性を追求していく機会とし、生涯スポーツに関わり健康な人生を送ることができるように基礎知識や経験を積む。
5 取組内容	<p>【オリンピアンによる講話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「運動やスポーツの必要性と楽しさ」を理解する。 ・ 「運動やスポーツへの多様な関わり方や楽しみ方」を知る。 ・ 「現代生活におけるスポーツの文化的意義」を理解する。 ・ 「オリンピック・パラリンピックが果たす文化的な役割」を理解する。 ・ 「人々を結びつけるスポーツの文化的な働き」を理解する。 ・ 中学生の部活動へ臨む態度や意識を高める。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【市橋有里さんの講演会の様子】</p>

	<p>【オリンピックによる実技指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上競技（マラソン競技）の魅力を知る。 ・ 陸上競技の基礎トレーニング方法を知り体験する。  <p>【市橋有里さんによる実技指導の様子】</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピックの意義や種目を知り、それに対する意識が高まり、東京オリンピックを心待ちにする生徒が増えた。 ・ オリンピアンの中学生時代の話を通じて、似たような悩みを抱えながらもそれを乗り越えてきた生き方に共感し、何事にも粘り強く取り組もうとする意識を持つことができた。 ・ オリンピアンに、誰でもすぐできる運動方法を教えてもらい、運動や走ることの楽しさを感じることができた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校は小規模校であり、全校生徒全員が参加できたこと。 ・ 北国ではあるが、積雪が少ない地域なので一年を通してスポーツに親しめる環境である。いつでもどこでもスポーツに取り組める環境を生かし、今後につなげたいと実施しました。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師（オリンピック）派遣をいただき大変感謝しているが、講師派遣がない場合でも継続して行っていくこと。 ・ 今回は手上げ方式で開催したが、オリンピックのお話や実技指導を受けられるのであれば、近隣の学校とも連携して開催できるような仕組みでも実施可能となるように検討いただければと感じました。（担当者が異動した場合、予定していない学校が参加したい場合の受け入れ体制）
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健体育科としては、継続してオリパラ教育を推進させる。東京オリンピック本番の年になるのでさらに中身を充実させて学習準備を進める。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	大船渡市立綾里中学校全校生徒 男子25名 女子17名 合計42名 1年 男子10名 女子 3名 2年 男子 6名 女子10名 3年 男子 9名 女子 4名
3 展開の形式	学校における活動 教科名：保健体育 英語 その他：総合的な学習の時間
4 目標 (ねらい)	パラリンピックを通して、多様性や国際理解などについて考え、未来の社会に対して自分たちができること、今後取り組むべきことを考え、自らの生き方についてより深く考えることができるようになる。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習：保健体育の授業と総合的な学習の時間</p> <p>① 保健体育の授業</p> <p>○パラリンピックについて 歴史(クイズ) 1時間目前半</p> <p>○実際の種目をやってみよう(ゴールボール体験2時間目・ボッチャ体験3時間目)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>楽しんでスポーツを行っている。</p> </div> <p><1・2年生>小学校で車いす体験済 車いすに乗ってボッチャをすると、何を感じるのか</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ボッチャを体験して、ボールを投げるのが難しいと感じました。思ったより早く落ちて、おとされてくやみです。ラングをつけてかきあげるとボールは近くおとせることがわかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>最初は、組んだ人がいかにボールのせい(つ)か重みを考えて、工夫して投げたら少しは長くなったのが良かった。また、車いすに乗ってやってみたら、立って投げより少しはりにくかったが、</p> </div> </div>

<3年生>自分の将来なりたい職業も考慮して体験



医療関係の職業
を目指している
二人
競技場を見る事
ができない
アシスタント役
も経験

ランプではどれくらい転がるのか試してみたら

ボールはあまり速く動くとスポーツでは
ないけれど、みんなを驚かして考えたり競え合
ったりするのを楽しめるスポーツだと思っ
ました。難しく、狙った位置にボールを投げ
ることはできませんでした。

ボールを体験して、最初のジャックボールをどこに投
げようか判断するのがとても難しく、さらにボールの
投げ方などいろいろありとても奥が深く
とてもおもしろかったです。ランプを使った試合で
は調節がとても難しく、さらに仲間とのコミュニ
ケーションがとても重要になり、かなりとても難しいのが
分かりました。

②導入として：総合的な学習の時間（1時間目後半）

- ・香西選手の映像と紹介から考えたこと

■香西宏昭選手の映像やプロフィールから、インスピ
レーションを受けたこと（心を揺さぶられたことや、
刺激を受けたこと）を書こう。

・まわりたいこと ・見聞したいこと ・すごいと感じたこと など

小学6年のときから野球バスケを始めたのが、すごい！
大学の大会で2年連続MVPを受賞してるのが、
すごい！
人一倍努力してるのが、すごい！
自分の好きなことを全力でやるのが、すごい！



香西選手の姿を見て自分を振り返ろう。

■自分にとって「勇気」「強い意志」を持って成しとげたいこと（目標）とは

【香西選手の内面】
・もっと頑張ること
・世界のどこに行っても活躍すること

努力を惜しまない（野球も勉強も）
放射線技師になること。

■自分の目標達成の前に立ちはたかるとは

【香西選手の内面】
・アメリカの大学への留学
・アメリカで一人暮らし
・入学後の学業成績維持

大身の大学高校に入るための学力をつける。
学業成績を良いまま維持する。
休まずに勉強を続ける。

■ハードルを越えるために、何をしたらよさそう？

今まで実行してこなかったアプローチを考えよう。（具体的な行動で考える）

【香西選手の内面】
・毎日、英語の単語を10
個ずつ覚えていった。
・海外の生活など、自分で
できることを積極的に
行った。
・日々の学習記録は、その
日のうちに終わらせる。

家での勉強をタラシくしない。
学習記録を1週間ごとに見る。

(2) パラリンピック講演会（4・5時間目）、お礼の手紙（6時間目）

：その他（総合的な学習の時間）
講師 パラテコンドー：太田渉子氏
「挑戦って楽しい！」（講演+実技）





先生の実演を見て、生徒も奮起

• お礼の手紙

この講話で、バに障がいがあっても公平に試合ができるのだなと思いました。私は、ホビーにしか興味がなくパラリンピックには、まったく興味がありませんでした。ですが、太田さんのお話を聞いてパラリンピックに興味をもつことができました。テコンドーの体験をしてみて、難しいかなと思いましたが、後ろ向き蹴りで特に、左足を蹴るのがとても難しかったです。これから自分で画したいことは、すぐにめんどくさくなって、すぐにやめてしまうことです。なので、太田さんのように、教にでも挑戦できるようにになりたいです。来年のパラリンピックで、テコンドーは絶対に見るので、金メダルをとれるようにがんばってきたいと思います。

今日は、パラリンピックが近づく中、私たちに指導してくださり、ありがとうございました。太田先生の経歴についてや、テコンドーについて知ることができました。小学生の頃から、スキーを始めて、たくさんいろいろなことがあって、パラリンピックに出場していて、とても凄いなと思いました。自分はあまり物事に全くと励むということができないのですが、これをきっかけにたくさんの方に挑戦してみたいと思いました。実技でも優しく教えてくださって、上手くできました。普段あまり知らないスポーツを詳しく学ぶことができ、良かったです。パラリンピックがあった際には、日本を背負うという圧力があるかもしれませんが、私はしっかり応援しますので、良い結果を残せるように挑戦してきてください。

(3) 英語の授業

岩手県大船渡市が提携しているホストタウンとして、アメリカ：ロサンゼルスと交流が以前からあった。それを活用し、オリンピックまたはパラリンピック選手にはげましと期待の手紙を書こうと考えた。(3年のみ)

Hello. I'm a Japanese student, Kotaro. I live in Ryori of Iwate prefecture. We have beautiful nature and a lot of good sea food. I love my country. The Tokyo Olympics would be held this year. But it have been postponed due to coronavirus. So, I wish we'll have it next year. How about you? I know you are practicing hard for the Olympics. I hope you show an excellent performance in it. (But I want Japanese players to win it!!) Let's do our best! When you come to Japan, we will welcome you. You must enjoy my country. I'm looking forward to seeing you!!
Best wishes, Kotaro.



Hello. My name is Noa Kumagai. I'm from Ryori of Iwate prefecture in Japan. I have a dream. I think it is difficult to make it come true. But I believe that efforts and rewarded. So I am studying hard now. What is your dream? Your efforts will be rewarded. Go for your dream. I know the Tokyo olympics have been postponed due to coronavirus. But every night comes to an end. I hope you will surely have something good. Please remember courage and love. And please give courage and love to the people around the world. I'm always here to cheer you up!
Best regards, Noa.



6 主な成果

• 事前・事後アンケートでは、特にパラリンピックへの興味・関心が大きく高まり、競技内容に興味を持った生徒も増えた。また、お年寄りや障がい者への意識に変化が見られたほか、故郷のよいところや外国への関心も高まった。


	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通して、多様性について知り、共生社会の基礎となる交流ができた。 ・発達段階に応じて、自らの生き方を深く考えることができた生徒が多かった。 ・生徒の感想では諦めず努力することの大切さや、外国の人との交流、パラリンピックに関わってみたいとの記述も見られ、スポーツやパラリンピックの意義や歴史に関する学び等を通してインクルーシブな社会、障がい者理解や多様性を尊重する態度の育成にもつながったと思われる。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業、英語の授業、総合的な学習の時間を組み合わせて、総合的に生き方を考えること ・小学生時の体験も生かしそれを活用しつつ、なりたい自分になるための心の変化が見られるように、教材を活用したこと ・パラリンピック教材を生かし、普段の授業にプラスアルファの教材研究で工夫できるようにしたこと ・小規模校の利点を生かし、細かな発見を大事にして、授業に生かすこと ・講演会の後、すぐにお礼の手紙が書けるように時間割調整したこと ・習った英語を使って、実際の選手に手紙を書くことで東京大会のレガシーを残せること
8主な課題等	<p>東京2020大会は生徒にとっても身近なものであったため、スムーズな活動・意欲につなげることができたが、今後の取り組み方については、学校全体で検討していく必要があると考える。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>来年度は本校は閉校に、統合になるため未定ではあるが、歴史の学習やボッチャ、ゴールボールは継続させ、スポーツに関する意欲・向上を図りつつ、インクルーシブな社会の構築の基礎を築いていきたいと考える。</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宮古市立河南中学校 3学年 男女（66名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○パラ競技に関する体験活動を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心の向上を図る。 ○パラ競技に関する講演を通して、努力することの大切さや生涯にわたってスポーツを楽しむ心を育む。
5 取組内容	○保健体育（事前学習） 【体育理論】 国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割 人々を結びつけるスポーツ大会の文化的な働き 【実 技】 ボッチャ ○講演会 講師：太田渉子氏（パラテコンドー） ・演題：挑戦って楽しい ・実技：パラテコンドー  ○保健体育（事後学習） 【体育理論】 ・講演・実技を通して、来年度開催予定の東京オリンピック・パラリンピックで一人一人がどのように関わっていきたいか考える。 ・中学校卒業後に、それぞれの立場でどのようなことができるか考える。

6 主な成果	<p>○オリンピック・パラリンピックへの関わりについて、一生に一度かもしれない自国開催のイベントに、関心をもつことができるように取り組むことができた。</p> <p>○実体験を聞くことで、どれほどの努力が今につながっているかを感じることができた。</p> <p>○パラリンピアンの前向きな生き方を知り、これから障がい者も健常者も助け合う世の中にしていきたいという気持ちが高まった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○オリンピック・パラリンピックについて、年間を通して生徒が学び続ける仕掛けをした。(体験等)</p> <p>○生徒にとってオリンピック・パラリンピックを身近なものにするために、多方面からのアプローチを試みた。</p>
8主な課題等	<p>○オリパラ教育について、保健体育科だけではなく他教科からもアプローチできるようにしていけるようにしたい。</p> <p>○実施内容を見直し、改善点などを含め次年度に引き継げるようにする。</p>
9来年度以降 の実施予定	<p>○今年度は中学3年生で実施したので、全校で取り組めるような計画を立て実施していきたい。</p> <p>○教具等を工夫し、パラスポーツに触れる機会を取り入れていきたい。</p>

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	山田町立山田中学校 3年生 106名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（学級活動、保健体育、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について学ぶことで、スポーツに対する興味関心を高める。 ○ 夢をあきらめず、困難を乗り越え、挑戦したり、努力する態度を養う。
5 取組内容	○ オリンピックの意義や歴史について学ぶ。(学級活動) ○ 思いやり、感謝、友情、などについて考える。(道徳) ○ 講演会の講師、千田健太選手について知る。(学級活動) ○ フェンシング元オリンピック選手による講演会の実施。 (保健体育) ○ 講演会で学んだことを振り返る。(学級活動)



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピックについて興味を深め、意義や歴史についての知識を深めることができた。 ○ オリンピック選手による講演会を通し、千田選手がオリンピックを通して学んだこと、自分の取組の甘さから一度チャンスを逃したが、その後奮起し、オリンピックに出場するという強い意志や、日本人選手が大きな外国人選手に挑むための様々な努力や工夫などについて学ぶことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会の後に、フェンシングの動きを取り入れた運動やミニゲーム、剣と風船を使ったフェンシング体験を行った。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校生徒対象に講演会を実施したかったが、コロナ対策もあり3年生のみの実施となったことが残念である。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度の予定はまだ未定だが、できればオリンピック選手に来てもらい、スポーツ選手の強い意志や挑戦する心などを学べる講演会等を実施したい。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】



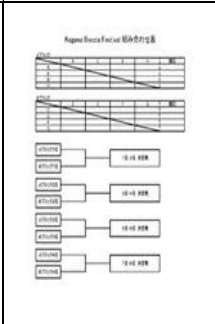


1 実践テーマ	【 II、V 】			
2 実施対象者	岩泉町立小川中学校 第3学年 男子10名 女子4名 計14名 教職員 14名 保護者 6名			
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (Kogawa Boccia Festival) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()			
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「する・みる・支える・知る」の「支える」の視点からスポーツを捉える。スポーツの「支える」の視点を学び、多様な関わり方を知る。 ・スポーツを楽しむ心を育み、生涯にわたって自分に合うスポーツとの関わり方を考える機会にする。 			
5 取組内容	(1) 運動やスポーツへの多様な関わり方を復習し、支えるという点から、スポーツとの関わりを学ぶ。 (2) Kogawa Boccia Festival 企画・準備 ① 運営組織 ・大会を運営に必要な組織を以下のように設定した。			
	組織名	競技運営部	審判部	記録・広報部
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施計画、要項の作成 ・会場図の作成 ・会場づくり ・イベント当日の開閉会式、競技の進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技のルール設定 ・チーム決め ・競技の組み合わせ ・タイムテーブルの作成 ・審判割当の作成 ・イベント時の競技のルール説明 ・実際に審判を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、職員、生徒への案内文書の作成、参加人数の集約 ・活動時の記録を撮影 ・新型コロナ対策を作成 ・イベント時のBGMの選定、CDの作成 ・イベント案内、活動報告を目的としたFacebookの活用

② 活動について

・以下の流れで企画・運営を行った。

	競技運営部	審判部	記録・広報部
①	競技要項、開閉会次第作成	ルール設定	案内文書作成、活動の記録撮影
②	競技要項作成、会場図作成	チーム割、タイムテーブル作成	参加者集計、Facebook にイベント案内の掲載案作成、活動の記録撮影
③	審判部と調整し、競技時間の設定	競技運営部と調整し、タイムテーブルの作成	Facebook、新型コロナ対応案作成、参加者アンケートの作成
④	リハーサル①、調整		
⑤	リハーサル②、調整		
⑥	イベント「Kogawa Boccia Festival」運営		

③ 生徒作成資料（一部抜粋）

案内文書	競技要項	タイムテーブル	コロナ対応	参加者アンケート
				

(3) 講師を招いての講演

- ① 講師 作業療法士 大久保 訓 氏
アスリートキャリアコンサルタント 山内 貴雄 氏
- ② 講演 ・対談形式でそれぞれの立場から見た「スポーツを支える」について
・東京 2020 大会から感じてほしいこと、期待すること
- ③ 演習 作業療法士体験 スポーツトーク



(4) Kogawa Boccia Festival 運営



(5) 振り返り


6 主な成果	<p>本事業を通して、生徒の感想から普段経験することのない「支える立場」に立ちスポーツに関わることで、今回行った企画・運営以外にも様々なスポーツへの関わり方があることを学ぶことができた。支える側の楽しさ、喜びを知ることによってスポーツに関わることへの意欲が高まり、自分に合った関わり方を模索する態度を養うことができた。また、支える側を経験することで、日常生活でも自分の小さな行動でも誰かの助けになることを学んだ。</p> <p>【講演を聞いての感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人を支える事はかなり大変だと思うけど、仕事をする中で楽しさややりがいを感じる場所がすごいと思った。スポーツは体を動かし、心も動かす力があることがわかった。自分でもスポーツをするときにそれを感じながら行いたいと思った。 • 講演を聴いて、人を支えたりその人の想いを一緒に押してあげる、この2つの共通点がある仕事は、とても夢のある、未来を作れる仕事だと知った。どちらも聞いたことのない仕事だったけど、知らないところで人を支えていることはすごい事なんだなと思った。やり方は違っても夢を作ったり、支えるということは同じ。つまり人を助ける方法は色々あることを知った。 • スポーツにはいろいろな面から関わることがわかった。特に支えるという面では、心と体のリハビリやスポーツ選手を導くなどで支えられることがわかった。またスポーツとの関わりで、自分がこれからどう関わるかを考えることができた。 <p>【イベント企画・運営の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベントを盛り上げようと3年生で力を合わせて頑張った。その結果、とても達成感があった。こうした支えるという仕事をしている人の気持ちがわかった良い体験になった。改めてスポーツは最高だと思った。 • 失敗が多く大変だったが、どうにか Facebook への投稿でイベントを宣伝することができた。支える側をやってみて、みんな楽しそうにやってくれて良かった。 • 初めてイベントを運営してみて、失敗もあったけど最終的にはみんなも自分も楽しんでできたので良かった。 • 普段はプレーヤーとしてスポーツに関わっていたが、今回運営をし、支えるということをしてみて、当日プレーヤーの人たちが楽しみながら勝敗を争っているのを見て、やって良かったと感じることができた。 • 今回自分たちが運営をしてみて大変だった。これから大会に参加するとき、運営の人たちへの感謝を忘れないようにしたい。 • 全て人を相手に行う事なので、公正でわかりやすくしなければならないので、その準備が大変だった。 • このイベントを通して、自分も支えられていることがわかった。関わってくれている人への感謝を忘れない。 • みんなでイベントを作り上げ、本番ではみんなが楽しんでくれて、いつも部活動でするのは違う喜びがあった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • イベントを実施するための生徒組織を設置し、生徒の手でイベントの企画を行った。 • 組織編成についても、岩手県バスケットボール協会等から助言を受けて設置した。 • コロナ対策、案内文書についても、教職員からアドバイスを受けながら作成した。 • 業種の異なる二名の講師から、「人を支える」という視点について聞き、考えを深めることができた。 • イベント企画・運営の際に大切にすべきこととして、「プレーヤーズセンタード」の考え方や、「来場者に伝えたい思いを持つこと」について生徒自身が考える機会となった。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 年度が始まってからの企画・運営であったため、時数の確保に苦労した。保護者も参加するイベントであったため、今後は総合や特別活動等の時数とのバランスを整えていく。 • 今年度はイベントを平日開催としたが、年間計画に授業参観や親子レクとしての実施を検討し、たくさんの保護者や地域の方々が参加できるような体制を整える。
9来年度以降の実施予定	未定（検討中）

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	岩手県立不来方高等学校 2学年体育学系 41名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツ概論) ② 行事名 (岩手県高等学校体育学科・コース・学系連絡協議会三校合同研修会講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を学ぶことで、スポーツの価値について理解を深め、生涯にわたってスポーツに携わる人材を育成する。 ○パラスポーツ体験を通じて、互いの人格・個性を認めあい、スポーツの楽しさを共有し、共生社会への理解を深める。
5 取組内容	○スポーツ概論にて (1) オリンピックとパラリンピックについての理解。 I'mPOSSIBLE を活用したパラリンピック・パラスポーツの理解。  【I'mPOSSIBLE を利用した授業風景】

(2) パラスポーツの体験

パラスポーツの一部を体験し、パラスポーツへの理解を深める。



【ボッチャ体験】



【卓球バレー（パラリトル種目ではない）】



【ゴールボール体験】

○岩手県高等学校体育学科・コース・学系連絡協議会三校合同研修会での講演の拝聴（講師：芦田 創 様 パラ陸上）
パラリンピアンへの講演を拝聴し、目標に向かう大切さや、共生社会の形成を図る。



【講演会】



【集合写真】

6 主な成果

- オリンピックはもとより、特にパラリンピック、パラスポーツについての理解が深まった。
- パラアスリートのレベルの高さや凄さを感じることができた。
- 共生社会への意識付けができた。
- 講演会では、アスリートとしての意識付け、前向きに取り組むことやチャレンジすることの大切さ、スポーツに対する考え方を学ぶことができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○大人数での合同授業等では、内容や指示が伝わりにくいと考えられたため、指示が比較的に通しやすい小規模(1クラス41名)での実施を行った。</p> <p>○「I'm POSSIBLE」を利用した授業展開は映像も豊富に盛り込まれ、授業を進める上で非常に有意義な教材であった。</p>
8主な課題等	<p>○今後の共生社会に向けて生徒への意識付けが一過性の物になっている可能性があるため、今後も継続する必要がある。</p> <p>○ガイドランナーを含めたパラスポーツへの援助を行える人材育成も視野に入れているが、将来、実践してくれる人材に育ったのかは、現時点で測ることができない。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○継続して、スポーツ概論等で実施したい。</p>